

令和7年度 豊田市立飯野小学校いじめ防止基本方針

1 いじめの防止についての基本的な考え方

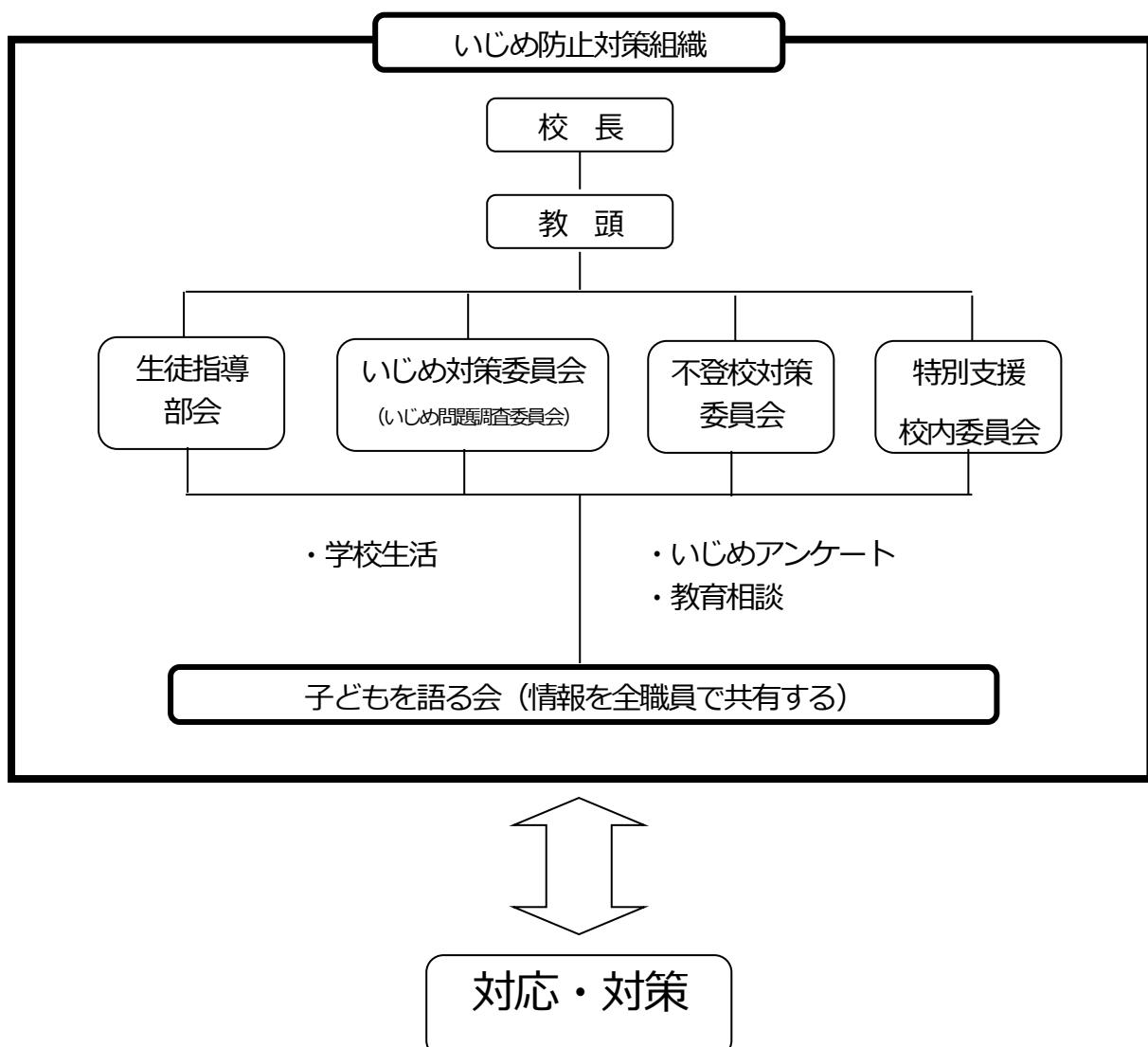
いじめは人間として絶対に許されない行為であり、同時に、いじめられた児童の心身に深刻な影響を及ぼす行為である。また、どの児童も被害者にも加害者にもなりうる。だからこそ、児童が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう、すべての教職員がいじめ防止に取り組まなければならない。

これらの基本的な考えを基に、教職員一人一人がいじめの問題の重大性を正しく認識し、日頃からささいな兆候を見逃さないように努めるとともに、学校全体で組織的に対応していく。何より学校は、児童が教職員や周囲の友人との信頼関係の中で、安心・安全に生活できる場でなくてはならない。児童一人一人が大切にされているという実感をもつとともに、互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けることができる学校づくりに取り組んでいく。

そうした中で、児童が自己肯定感や自己有用感を育み、仲間と共に人間的に成長できる魅力ある学校づくりを進める。

2 いじめ防止対策組織

校内に「いじめ防止対策組織」として、「いじめ対策委員会」と「子どもを語る会」を設置し、ささいないじめの兆候や懸念、児童からの訴えを、特定の教員が抱え込むことのないように組織として対応する。



(1) 「いじめ対策委員会」の役割

- ア 「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の実施と進捗状況の確認
 - ・教員による「点検と見直しのためのチェックシート」や「保護者アンケート」を実施し、学校におけるいじめ防止対策の検証を行い、改善策を検討していく。
- イ 教職員への共通理解と意識啓発
 - ・年度初めの職員会議で「学校いじめ防止基本方針」の周知を図り、教職員の共通理解を図る。
 - ・教育相談アンケート（いじめアンケート）や教育相談の結果の集約、分析、対策の検討を行い、実効性のあるいじめ防止対策に努める。
 - ・教職員の資質能力向上を目指し、いじめ防止に関する校内研修や伝達講習を計画実施する。
- ウ 児童や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発
 - ・随時、学校だよりやホームページ等を通して、いじめ防止の取組状況や学校自己評価の結果等を発信する。
- エ いじめへの対処
 - ・いじめがあった場合、あるいはいじめの疑いがあるとの情報があった場合は、正確な事実の把握に努め、いじめの解消にむけた指導・支援体制を組織する。
 - ・犯罪が疑われるいじめについては、直ちに「臨時いじめ対策委員会」を開催し、警察への相談・通報の必要性を判断する。
 - ・警察との連携が必要だと判断した場合、また、判断に迷う場合は、パレクとよた担当主事へ連絡し、「いじめ早期相談票」を提出する。
 - ・パレクとよたの指示のもと、学校から警察署（生活安全課）へ連絡・通報し、適切な援助を受ける。
 - ・事案への対応については、適切なメンバー構成を検討し、迅速かつ効果的に対応する。また、必要に応じて、外部の専門家、関係機関と連携して対応する。
 - ・必要に応じて、指導・支援の方針の結果について教育委員会へ報告する。
 - ・いじめ解消の判断をする。
 - ・重大事態が起きた場合は、「いじめ問題調査委員会」を兼ねる。

(2) いじめ防止対策委員会の構成員

<教職員>

- 校長 教頭 教育相談コーディネーター 教務主任
- 校務主任 教育相談主任 生徒指導主事（主任）
- 学年主任 養護教諭 スクールカウンセラー

※必要に応じて、心理、福祉等に関する専門的な知識を有する方を加える。

- スクールソーシャルワーカー
- 主任児童委員 学校アドバイザー PTA代表者 等

(3) 「子どもを語る会」の役割

- ・全教職員で児童の実態と指導方針の共通理解をし、いじめ問題に対して組織的に対応する。

(4) 「いじめ対策委員会」「子どもを語る会」の開催時期

- ア 学校全体の様子を把握し、いじめ防止・いじめ対策に努めるために、定期的に「いじめ対策委員会」を開催する。
- イ 毎月職員会議後、「子どもを語る会」を開催し、日常の児童の実態を全職員で共通理解し、対応策の検討や方針を徹底する。

ウ 緊急にいじめ事案への対応が求められる場合については、「いじめ対策委員会」を臨時に開催する。

3 いじめの防止等に関する具体的な取組

(1) 未然防止の取組

- ア 児童同士の関わりを大切にし、互いに認め合い、共に成長していく学級づくりを進める。
- イ 児童の活動や努力を認め、自己肯定感を育む授業づくりに努める。
- ウ 縦割り班（スマイル班）活動を行い、異学年で交流する機会を定期的に設定することにより、お互いに思いやりの心をもって接する態度を養う。
- エ 教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育の充実を図るとともに、体験活動を推進し、命の大切さ、相手を思いやる心の醸成を図る。
- オ 情報モラル教育を推進し、児童がネットやSNSの正しい利用とマナーについての理解を深め、ネットいじめの加害者、被害者とならないよう継続的に指導する。
- カ 新型コロナウィルス感染症に関連するいじめや偏見、差別をなくすよう学校全体で指導する。
- キ 児童自らがいじめについて考え、主体的に行動できる取り組みを充実させる。

(2) 早期発見の取組

- ア いじめアンケートや教育相談（5月、9月、1月の年3回）を定期的に実施し、児童の小さなサインを見逃さないように努める。
- イ 教師と児童との温かい人間関係づくりや、保護者との信頼関係づくりに努め、いじめ等について相談しやすい環境を整える。
- ウ いじめ相談電話等、外部の相談機関を紹介し、児童が相談しやすい環境を整える。
- エ 月に1回職員会議後に、「教員チェックシート」を実施して学級の様子を把握し、いじめの兆候の把握に努める。
- オ 教職員間で情報共有する「子どもを語る会」を定期的に設け、一人の判断で見逃したり、抱え込んだりすることがないようにする。
- カ 「いじめのサイン発見チェックシート（保護者用）」を学校ホームページに掲載し保護者が早期発見できるようにする。

(3) いじめへの対処

- ア いじめの発見・通報を受けたら速やかに管理職へ報告をあげ「いじめ対策委員会」を中心に組織的に対応する。
- イ いじめを受けた児童を守り通すという姿勢で対応する。
- ウ いじめの状況について児童に聴き取りを行う際には、客観的な事実を把握するよう心がけ、丁寧に記録し、事実を正確に把握できるようにする。
- エ いじめを行った児童には教育的配慮のもと、毅然とした姿勢で指導や支援を行う。
- オ 教職員の共通理解、保護者との連携、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家や、警察署、豊田加茂児童・障害者相談センター等の関係機関との連携のもとで取り組む。
- カ いじめが起きた集団へのはたらきかけを行い、いじめを見過ごさない、生み出さない集団づくりを行う。
- カ ネット上のいじめへの対応については、必要に応じて警察署や法務局等とも連携して行う。

(4) いじめ解消の目安

- いじめが止んだ（解決）と判断できる状態でも、3カ月を目安に十分な経過観察と適宜面談等を行ない、「いじめ対策委員会」で最終的に「解消」と判断する。

<いじめ解決の目安>

- ・いじめを受けた児童が、現在いじめないと自覚している。
- ・いじめを受けた児童の保護者が、現在いじめないと判断できる。
- ・周りの児童や教師から見て、現在いじめないと判断できる。

4 重大事態への対応

- (1) 重大事態が生じた場合は、速やかに教育委員会に報告をし、「重大事態の対応フロー図」に基づいて対応する。
- (2) 学校が事実に関する調査を実施する場合は、「いじめ対策委員会」を開催し、事案に応じて適切な専門家を加えるなどして対応する。
- (3) 調査結果については、いじめを受けた児童、保護者に対して適切に情報を提供する。

5 学校の取組に対する検証・見直し

- (1) 学校いじめ防止基本方針をはじめとするいじめ防止の取組については、P D C A サイクル (P L A N → D O → C H E C K → A C T I O N) で見直し、実効性のある取組となるよう努める。

6 その他

- (1) いじめ防止に関する校内研修 (O J T 研修) を年1回計画し、児童理解やいじめ対応に関する教職員の資質向上に努める。
- (2) 「学校いじめ防止基本方針」は4月に保護者へ配付するとともに、ホームページに掲載する。必要に応じて、年度途中に見直しをする。
- (3) 長期休業中の事前・事後指導を行い、休業中のいじめ防止に取り組む。

〈いじめ防止についての取組の年間計画〉

	いじめ防止対策委員会	未然防止の取組	早期発見の取組	保護者・地域との連携	
4月	P ↓ D ↓ C ↓ A ↓ P ↓ D ↓ C ↓ A ↓ P へ	○「学校いじめ基本方針」の内容の確認 ○学級開き、学年開き ○保健指導（心と体の成長） ○「1年生をむかえる会」	○心の相談員やS Cの児童、保護者への周知 ○学級開き、学年開き ○保健指導（心と体の成長） ○「1年生をむかえる会」	○いじめ相談窓口の児童生徒、保護者への周知 ○身体測定	○PTA理事会での「学校いじめ基本方針」の説明を全家庭への配布 ○個別懇談会
5月		○現職研修①「事例検討会（ケース会議）」		○「教育相談アンケート（いじめアンケート）」 ○教育相談週間	
6月		○第1回いじめ対策委員会		○授業参観	
7月		○学校自己評価委員会	○情報モラル指導（ネットモラル）	○個別懇談会	
8月					
9月			○身体測定 ○「教育相談アンケート（いじめアンケート）」 ○教育相談週間		
10月		○第2回いじめ防止対策委員会			
11月		○現職研修②「事例検討会（ケース会議）」		○藤岡地区ふれあいフェスタ ○保護者アンケート	
12月		○全教職員によるいじめ防止対策委員会の評価→検証	○人権週間（講話） ○赤い羽根募金活動	○個別懇談会	
1月		○学校自己評価 ○第3回いじめ防止対策委員会	○保健指導（命の大切さ）	○公開授業 ○地域に学ぶ会 ○学校関係者評価委員会で「自己評価」の評価を行う。	
2月			○学校保健委員会	○授業参観	
3月		○学校関係者評価の結果を検証し、「基本方針」の見直し	○6年生を送る会		
通年		○校内のいじめに関する情報の収集 ○対応策の検討 ○伝達講習を定期的開催（O J T）	○集会における校長講話 ○道徳教育、体験活動の充実 ○分かる授業の充実 ○縦割り班（スマイル班）遊び	○健康観察の実施 ○心の相談員・S Cによる相談 ○生活日記	

※いじめが発生した場合の対応については、関係する職員で共通理解を図りながら、対応していく。